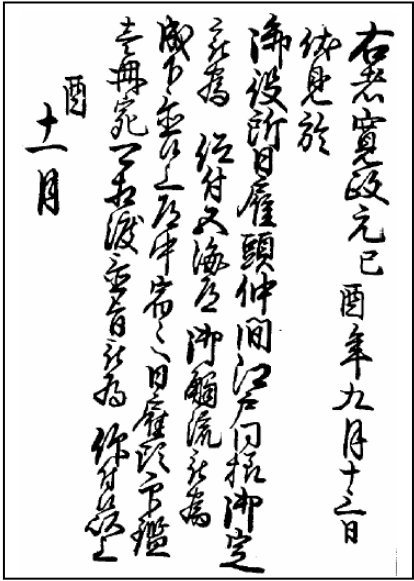
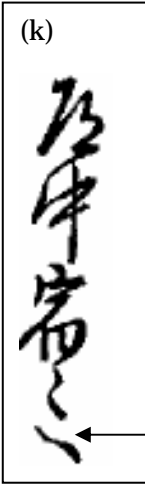


### これまでの復習も兼ねて



(k)の最初の乃 は前回も出てきた「道」です。次の



「中」はすぐ読めると思います。宿 は「宀」に「百」?と見えますが、第1回でも出てきた「宿」です。

次の ㄣ が、今回のポイントです。一見すると「之」にも見えます。しかし、「之」と

とすると、ㄣ と ㄣ の間の「隙間」が気になります。実は ㄣ は「へ」というひらがなで、ㄣ は「々」という字です。(k)は「道中宿々へ」と書いてあ

ります。慣れている人なら、ㄣ を「へ」と見抜いてから ㄣ は「々」という字で矛盾がない、と考えられると思います。

(l)は最初の2文字は読めると思います。似たような文字が前々回も出ていますので、「日雇」次の 𠂔 は難しいですが、旁の 𠂔 が「頁」だとわかれば、第17回の(e)「日雇頭仲間」から、𠂔 は「頭」ではないか、と仮説を立てられるかもしれません。次の 𠂔 は難しい崩し方で、これは「印」という字です。ここに出てきた 𠂔 は典型的なくずしなので、覚えてしまっ



てください。最後の 𠂔 は、偏の 𠂔 が典型的な「金偏」です。第2回でも少し説明しましたが、重要なので、再度確認しましょう。旁の 𠂔 は、下に「皿」というパーツが読み取れると思います。前の「印」と合わせて「鑑」とわかるのではないのでしょうか。(l)は「日雇頭印鑑」となります。



最後の1行は、実は既に第4回でやってしまっています。説明は省略します。「𠂔冊宛可相渡置旨、被為仰付候、以上」となります。

最後にある(m)は日付ですが、最初の 酉 は「酉(とり)」で、土 を「土」ではなく、2文字で「十一」と読めれば、「酉十一月」(酉年の11月)とわかります。